

# 学校評価(自己評価と学校関係者評価)結果 (2024年度)

北海道キリスト教学園 リタ幼稚園

## 1. 本園の教育目標、教育方針

### ◎教育方針

キリスト教の人間観を土台にすえ、各年齢にふさわしい集団と環境の保障に配慮し、「遊び」を中心とした保育を行い、家庭や地域と協力しながら、子どもたち一人一人の全人格的な発達を促す。

### ◎教育目標

1. 豊かな愛の中で、目には見えないところを育む。
2. 一人一人“違う存在”であることを大切に
3. 「遊び」が子どもを育て、人としての土台を育む

## 2. 2024年度、重点的に取り組む目標・計画

教育方針、教育目標を職員が心に留め、子ども一人一人の思いや気持ちをしっかりと受け止める。また、遊びをとおして、子どもたちの創造力、想像力が育まれ、成長へとつながることを信じ、子どもたちとの歩みの中で具体化していく。そのための学びを日々深めていく。

## 3. 評価項目の達成及び取り組み状況

評価項目	取り組み状況と今後の対応
幼稚園教育要領、園の教育理念・教育方針を理解した上で、教育課程の編成にあたる。	幼稚園教育要領を学ぶ機会をなかなか持つことができなかつたが各講習を受ける中で、求められている非認知能力の向上等は、これまで自分たちが取り組んできた保育を進めていくこととつながっていることを確認することができた。今後、より教育要領、園の理念・教育方針について改めて学び、自分たちが目指している教育をよりよく確かなものとしたい。
個々の子どもたちの発達や課題について理解し、家庭との連携をとる	全体の保育の流れを大切にしながらも、その時その時の子どもたち一人一人の気持ちを受け止めることを心がけてきた。外部の講師を招き子どもの発達について学びを深めた。子どもたちの様子をノートやおたより、電話によって、また保護者と顔を合わせた時に伝えるように心がけてきた。保護者からの要望や不安などに関しても、丁寧に対応することを心がけた。子どもたちの豊かな成長のためには保護者の協力が欠かせないので、これからも保護者との連携を大切にしていきたい。子どもたちの個々の発達に対応するため発達支援の施設との連携を深めてきた。
健康・安全・危機管理	子どもたちが日常生活のために園内の清掃、換気、採光に気をつけてきた。おもちゃの配置も子どもたちが取り組みやすいよう、なおかつ安全であるように気を付けてきた。園庭の見回りは昨年度よりも改善できたが、まだ確認不足の箇所があった。緊急メールを導入しているが、一定の職員だけではなく、複数の職員がメールを発信できるようその方法を周知した。その結果、メールの運用が特定の職員に限らず可能となりつつある。

<p>保育者同士が連携し、幼児を理解し、かかわる</p>	<p>個々の子どもたちの発達や課題について常に職員間で話し合い共有することを心がけてきた。子どもたちやクラスの様子に関する情報交換を日々の保育後の打ち合わせや週一度の職員会議の中で行い、共通認識をもつように心がけた。必要な場合には、専門機関からの助言を受けた。次年度も継続して、取り組んでいきたい。</p>
<p>各研修会や研究会に積極的に参加し、保育者として向上する。</p>	<p>自分たちの保育の土台を確認するためにキリスト教保育連盟の研修会に参加した。子どもたちの遊びをより深めるために、定期的に「あそび」についての研修を外部講師を招いたり、オンラインでの研修会に積極的に参加した。その都度、研修報告を各自がまとめて、自分が何を学んだのかを振り返ることをした。特に、後志地区の研修では顔と顔を合わせてあそびやキリスト教保育についての研修を行い、他園の先生たちとも交流を持ち励ましを得ることができた。</p>

#### 4. 今後取り組むべき課題

<p>課 題</p>	<p>具体的な取組み方法</p>
<p>園の教育理念、教育方針、幼稚園教育要領をさらに深く理解する。</p>	<p>園の理念・教育方針の根幹であるキリスト教保育について、外部の研修や園内研修を通して理解を深める。また「遊び」の大切さを謳っている幼稚園教育要領の理解も研修を通して深める。</p>
<p>防災の意識を高め、深める。</p>	<p>防災計画を職員一人一人が把握し、災害時に共通した認識の中で行動できるようにする。災害時に起こりえる具体的な場面を想定した訓練を実施する。各クラスの防災グッズの確認と配備を進める。冬場を想定した避難訓練を計画しつつも実行することができなかった。</p>
<p>子どもたちの様子や当園が目指している教育について、保護者や地域に発信していく。</p>	<p>保護者に対して写真を活用したクラスだよりやリタ通信で、園での子どもたちの様子がわかるように情報を発信していく。地域に向けては、より広く園のことを知っていただくために、ホームページのさらなる充実をはかっていく。特にSNS (Instagram) の活用を進める。当園が目指している教育について、保護者や地域の人々、またこれから入園を考えている保護者に向けて発信する手段として、専門家を招いて、教育講演会を開催することを計画したい。</p>
<p>子どもたちの教育に必要な施設整備を行う。</p>	<p>今後も、施設・設備に関しては、順次計画を立てて、更新していく。室内及び園庭において空間を分けて遊びこめる環境を整える「コーナーづくり」に引き続き取り組んだ。一つひとつの遊びを通してどのような力を育むことができるかを常に思考しながら環境設定を整えている。</p>
<p>子育て支援の充実。</p>	<p>未就園児親子サークル「ぷれプレ」と「プレイサークル」をさらに充実させていく。次年度はさらに親子にとって楽しく安心できる場所になるよう心掛けていく。親子サークルの働きを通して、幼稚園教育に興味を抱いていただけるようにしていく。</p>

## 5. 学校関係者評価委員会の意見

- ・2024年度から余市町独自の助成金により満3歳児の預かり保育料が無償化となった。そのことを受け、預かり保育の利用者が常時30名を超える状況となった。保育のニーズが高まっていることを感じる。その中で、2025年度からの「幼稚園型認定こども園」への移行することとなる。さまざまに変化があると予想されるが、これまでのように一つひとつの事柄に誠実に向き合いながら保育を進めていってほしい。
- ・ホームページのブログの更新が滞りがちだが、園のようすを少しでも知ってもらうためにも、次年度も頻繁に更新して頂きたい。特にSNSの活用に期待をする。
- ・先生たちが子どもたちのようすを常に共有し合って、保育に取り組んでいこうとしている姿勢がよく伝わってくる。保護者との連携も大切にしようとしているので、次年度も継続していただきたい。
- ・地域との関係づくりを大切にしたいとの思いをもっていることは、この地域にとってとても大切なことである。そのことを今後もさらに突き詰めていってほしい。
- ・猛暑が続くことから2学期(9月)に行っていた運動会を1学期(6月)にスライドした。その中で単に時期を変更するだけではなく、こどもの育ちにしっかり目を向けて運動会の意味をとらえなおし「みんなでうんどうかい」と名称変更を行いこどももおとなも安心をもって望むことができる一日となった。健康上の点だけにとどまらずこどもにとって何が必要かをしっかりとらえた取り組みを心から評価するものである。1学期に「みんなでうんどうかい」を行ったことで、自信を育みそのことが1年間の歩みの土台となっているように感じた。また、2学期にゆとりをもって遊びこむ時間を確保できたことも幼稚園の保育を進めていくうえで大きなことだった。